

歴史アルバムに込めた私の思い

施設名：老人保健施設 友愛園

発表者：與座勇人

【はじめに】

利用者には、ひとりひとり深い歴史がある。会話などを通して、その歴史に触れたとき、日頃の接し方や言葉使いについて反省してしまうことがある。それは利用者に対して、何とも言えない「敬い」の気持ちが込められているからである。

このような経験を、職員みんながより多く体感できる機会を作りたいと考え、歴史アルバムの作製に取り組んだ。

今回は取り組みの紹介、およびその意義について述べていく。

【取り組み】

- ・ 担当者会議にて、ご家族に利用者の昔の写真を持ってきて頂くよう依頼した。
- ・ 昔の写真を、その人の生きてきた歴史が少しでも感じ取れるようにアルバムにまとめ、居室に飾った。

【取り組みの意義】

歴史アルバムに込めた私の思いは、改めて利用者を人生の大先輩と敬いたいことに尽きる。戦争、また戦後復旧と、激動の時代を生き抜いてきた人生経験の深さは図りしれないものである。苦しさも次世代の幸せを願って乗り越えてきたに違いない。

私達は、多忙な業務に追われる中で、“敬い”の気持ちが薄れていくこともある。何を指してこの仕事を選んだのか、思い起こすゆとりもなく、ついつい利用者に対して強い言葉を使ってしまうこともある。

このような状況は、「やさしくしなさい」などという一言の助言で解決するような簡単な問題ではない。

そこで私達はアルバムを通して、利用者の人生に触れることで、利用者を経験豊富な大先輩と改めて感じ、忘れかけていた敬いの気持ちを思い起

こすことができるのではないかと考えた。この敬いの気持ちこそ、利用者を幸せに導く細やかなケアへと繋がっていくと信じている。

また利用者と家族間のつながりも重要な意義を持つ。歴史アルバムを見ながら、利用者を中心に会話が弾む。そういった場面がひとつでも増えていけば、それこそ利用者にとって最大のケアである。

【終わりに】

歴史アルバムは、利用者への敬いの気持ちを思い起こす機会を与えてくれる。今後は利用者、ご家族、職員みんなでアルバムを作り、それを共有できる場を作っていきたい。